

## 2009年度春季大会の告示

### ・大会の案内

#### 1. 期日

2009年5月28日(木)~31日(日)

午前：口頭，ポスター

午後：シンポジウム

第4日(5月31日)

午前：口頭，ポスター

午後：公開講演会，専門分科会

#### 2. 会場

つくば国際会議場

〒305-0032 茨城県つくば市竹園 2-20-3

<http://www.epochal.or.jp/>

#### 5. シンポジウム

大会第3日(5月30日)の午後に開催予定です。  
テーマは「地球温暖化に関する科学的根拠の解明と  
脆弱性評価のさらなる連携に向けて」です。

#### 3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の  
詳細につきましては下記「研究発表要領」をご参  
照下さい。

#### 4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第1日(5月28日)

午前：口頭，ポスター

午後：専門分科会

第2日(5月29日)

午前：口頭，ポスター

午後：総会，受賞記念講演，懇親会

第3日(5月30日)

#### 6. 懇親会

大会第2日(5月29日)の夕刻に，大会会場にて  
開催予定です。

#### 7. 大会ウェブサイト【2009年1月16日(金)開 設予定】

本大会では，講演申込み受付や大会プログラムの  
掲載などを行うための大会ウェブサイトを，2009年  
1月16日(金)より開設する予定です。URL等の詳  
細につきましては，気象学会ホームページ  
(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/>) をご参照下さい。

### ・大会参加手続き

#### 1. 講演を行う場合の参加申込方法

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで  
行って下さい。オンラインで予稿原稿を送付できな  
い場合や，クレジットカードによるオンライン決済  
ができない場合など，止むを得ない事情がある場合  
は，郵送による申込を受け付けます。

なお，大会参加登録・参加費支払済みであること  
を講演申込資格とさせて頂きますのでご注意下さい。

##### 1.1 オンラインによる申込

・締切：2009年2月17日(火)15時(日本時間)

・大会ウェブサイトを参照し，指示に従って申し込  
みをして下さい。  
・大会ウェブサイト上で最初に個人情報とIDの登録  
を行い，パスワード取得します(前回取得したパ  
スワードはそのまま利用することはできません。  
お手数ですが，改めて個人情報とIDの登録及びパ  
スワードの取得を行って下さい)。このIDとパス  
ワードを元にシステムにログインし，大会参加登  
録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済などを行  
います。

- ・個人情報と ID の登録は講演者本人が行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込（クレジットカード決済）をして下さい。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・講演申込み締め切り（2月17日（火））までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

#### 1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2009年2月10日（火）必着  
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい。)
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局（下記）までお送り下さい。

##### 予稿原稿

講演者氏名（漢字とローマ字）、会員番号、講演種別、連絡先（住所・電話番号・E-mailアドレス）、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの（様式は自由です。）  
郵便振替払込受領証（次項参照）

##### 送付先：

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
気象研究所予報研究部内  
気象学会講演企画委員会事務局

（封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。）

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。

- 口座番号は「00130-3-5958」、  
加入者名は「日本気象学会」です。

- 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。  
「2009年度春季大会参加申込」と明記  
会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）

大会参加種別（講演者Aまたは講演者B）

##### 大会参加費金額

##### 懇親会費金額

##### 合計金額

- 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- 払込料金は本人負担でお願いします。

#### 1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意下さい。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会（kouenkikaku2009s@mri-jma.go.jp）までご相談下さい。

#### 2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

##### 2.1 オンラインによる申込

2009年4月7日（火）までに大会ウェブサイトで参加登録し、参加費を払い込む（クレジットカード決済のみ）。

##### 2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2009年3月31日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込む。

- 口座番号は「00130-3-5958」、  
加入者名は「日本気象学会」です。

- 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。  
「2009年度春季大会参加申込」と明記

##### 大会参加種別（聴講者）

##### 大会参加費金額

##### 懇親会費金額

##### 合計金額

- 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- 払込料金は本人負担でお願いします。

### 2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意下さい）。

### 3. 参加費、懇親会費

#### 3.1 大会参加費

- ・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	-
講演者 B	5,000 円	-
聴講者	3,000 円	4,000 円

- ・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- ・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

#### 3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。今

回は、格段に参加しやすい料金を設定いたしました。軽食が中心とはなりますが、世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	3,000 円	4,000 円
学生	2,000 円	3,000 円

・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することができます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意下さい。

#### 3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- ・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

### 4. 予稿原稿作成要領

#### 1. 原稿サイズ・枚数

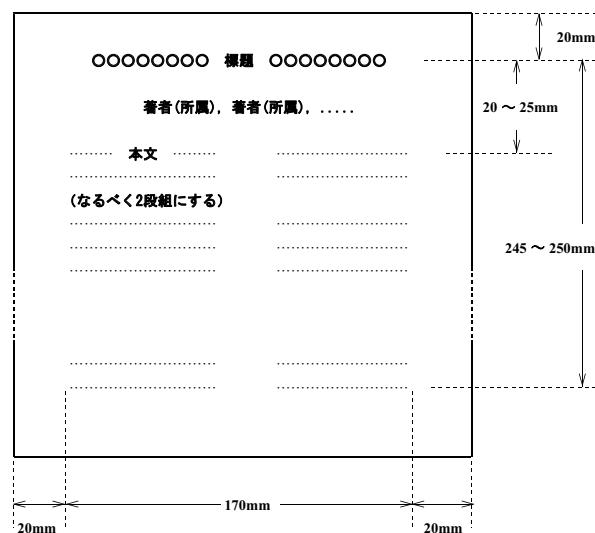
1 件あたり A4 判 1 枚とします。

#### 2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

#### 3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。



図： A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

#### 4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm × 横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は 20 ~ 25mm

として下さい。本文はなるべく 2 段組（左半分 右半分）にして下さい。

#### 5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。

### 研究発表要領

#### 1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（専門分科会を含む）とポスター発表の 2 種類があります。

#### 2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

#### 3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭 / ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

#### 4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

#### 5. 専門分科会の概要

- 専門分科会は、大会第 1 日（5 月 28 日（木））及び大会第 4 日（5 月 31 日（日））の午後に開催予定です。
- 専門分科会の各講演の講演時間はコンピューターが決定し、大会プログラムに掲載します。
- 専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同

じ（オンライン申込は 2 月 17 日（火）、郵送申込は 2 月 10 日（火））です。

- 専門分科会に申し込まれた発表については、コンピューターが予稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- 専門分科会に申し込まれた発表が、コンピューターによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- 各専門分科会の詳細につきましては、「専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

#### 6. ポスター発表の概要

- ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。掲示する際には画鋲をお使いください（ガムテープ等はきれいに剥がせれば使用可能ですが、掲示面が布状なので接着しづらいかもしれません）。画鋲等は講演者自身でご用意ください。なお、電源は使用できません。
- 掲示スペースは縦 210 cm × 横 90 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

#### 7. 講演における機器の使用について

- 口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PC プロジェクターと OHP が使用できますが、それ以外の機器は使用できません。
- OHP を使用したい場合は、講演申込時に届け出て下さい。講演申込時に届けがない場合は PC プロジェクターを用いた発表とみなします。

- ・PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
  - パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
  - セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
  - 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いします。
- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時

に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

- ・ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

## 8. その他

- ・申込まれた予稿の内容が、(ア)気象学とは全く無関係である、(イ)極めて非合理的・非論理的である、(ウ)他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることができないと講演企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。
- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

## . 専門分科会のテーマと趣旨

2009 年度春季大会では下記の通り、5 件の専門分科会が開かれます。

1.「広域スケールの大気-陸域間の相互作用と気候変動」  
趣旨：陸面の熱・水・物質交換は気候システムにおいて重要な役割を果たしており、近年の地球システムモデルでも必須のコンポーネントとなっている。しかし、生態系の複雑性や不均質性、人間活動による影響のため広域スケールの評価は難しく、予測の不確実性の一因になっている。衛星観測に代表されるモニタリング、フラックス観測などの現地観測、そしてモデリングによる統合的研究が必要である。本分科会では、陸域プロセスの熱・水収支や物質交換について、観測とモデル両面からの研究紹介の講演を募集する。最後の総合討論において、今後の方向性や新たな研究協力の可能性について議論を行う。

コンビーナー：伊藤昭彦（国立環境研究所）、馬淵和雄（気象研究所）

2.「グローバルな雲・降水システムの研究の現状と

### 将来」

趣旨：IPCC 第 4 次報告書において、放射強制力における雲エアロゾルの影響や、温暖化の降水システムへの影響に不確定要素が大きいことが指摘されている。これらに対して TRMM の熱帯降雨の長期観測、AMSR-E の全球水循環観測、CloudSat の雲エアロゾル観測などがあり、個別には様々な成果が得られている。雲解像全球モデルの分解能向上により、衛星データの比較や同化が現実的となる一方で、モデル結果の検証には高分解能な衛星データが必須である。既存衛星のデータは着実に蓄積されつつあり、観測・解析と全球雲解像モデル等をあわせた、総合・横断的な研究を行う素地ができてきた。将来的にも 2013 年頃に GCOM-W/C、EarthCARE、GPM 等の衛星が揃い、観測の継続が見込まれる。そこで、本専門部会を通じて、これらの総合・横断的な研究発表により現状を俯瞰し、将来を展望する。さらに、その次の世代のミッションへの提言も集約したい。

コンビーナー：沖 理子（宇宙航空研究開発機構）、青梨和正（気象研究所）、中島映至（東京大学気候システム研究センター）、藤吉康志（北海道大学低

温科学研究所), 佐藤正樹(東京大学気候システム研究センター), 井口俊夫(情報通信研究機構)

### 3.「GPS 気象学と衛星観測データの利用」

趣旨: 前回の「GPS 気象学」の専門分科会から 7 年が経ち, 地上型 GPS 観測では, リアルタイム解析を用いた研究が始まり, 気象庁では GPS 可降水量が同化データとして現業利用されている. 掩蔽型 GPS 観測でも, 衛星 6 基からなる COSMIC が打ち上げられ, 全球データベースや同化実験が行われるなど, 「GPS 気象学」は新しい展開を見せており. この時期に合わせ, 「GPS 気象学と衛星観測データの利用」というタイトルで専門分科会を開く. 専門分科会では, NCAR の Kuo 博士, GFZ の Wickert 博士に基調講演をお願いして, GPS データなど用いた解析・同化実験等の応用についての世界の研究の動向を報告していただくとともに, 日本からも招待した研究者や発表希望する研究者から, 最新の成果を発表してもらって, 情報・意見交換をおこない, 今後の展望についての意見等を共有する. 講演者には英語による講演, もしくはパワーポイントの英語化をお願いすることあります.

コンビーナー: 濑古 弘, 小司禎教(気象研究所), 市川隆一(情報通信研究機構)

### 4.「民間航空機が拓く新しい大気観測とそのデータ利用」

趣旨: 民間航空機を大気観測に利用するには安全上の制約が大きいが, コスト, 観測領域, 観測頻度などの面では非常に有効な観測プラットフォームである. 日本では 1970 年代の終わりから東北大学が民間航空機による温室効果ガス観測を続けている. 2005 年末からは, 日本航空の運航する大型旅客機を使った CO<sub>2</sub> 濃度の連続測定が実現し, これまでにない頻度で世界各地の鉛直分布や水平分布に関する膨大なデータが得られている. これらの

データは炭素循環の解明に貢献するばかりでなく, 温室効果ガス観測衛星の検証データとしても極めて有用である. さらに, CO<sub>2</sub> データを大気輸送のトレーサとして解析することによって, 気象学の分野への新たな活用も期待できる. 本分科会では民間航空機の特徴を活かした観測研究について幅広く話題を募集し, 観測手法, データ解析手法や解析結果について議論すると共に, 新たなデータ利用の可能性についても意見を交わしたい.

コンビーナー: 町田敏暢(国立環境研究所), 中澤高清(東北大学大学院理学研究科), 松枝秀和, 澤庸介(気象研究所)

### 5.「2008 年夏季の局地豪雨」

趣旨: 2008 年夏季に頻発した局地豪雨は, 各地に浸水害や土砂災害をもたらし, 交通機関などにも深刻な影響が出た. 神戸市灘区や東京都豊島区, 愛知県岡崎市などでは, 死者を伴う被害が発生し, 「ゲリラ豪雨」などと報道され社会的にも大きな問題となった. 局地豪雨は, 一般に予測が困難とされているが, 現在の技術水準からは, 数値予報によるポテンシャル予測, ナウキャストによる実況把握, 雲解像モデルによる積乱雲のシミュレーションについては, ある程度可能になっている. その一方で, 防災情報につながる定量的な予測に関しては, 多くの技術的課題が残っている. この分科会では, 観測・解析・ナウキャスト・モデル・データ同化・アンサンブル予報・防災情報などについて局地豪雨に関する話題を募り, 現時点での到達点を確認するとともに, 将来的な局地豪雨予測の実現に向けてどのようなアプローチや研究者間の協力が必要か, について議論したい.

コンビーナー: 斎藤和雄, 石原正仁(気象研究所), 岩波 越(防災科学技術研究所), 川畠拓矢(気象研究所)

## ・ 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません. しかしながら, 短期滞在の外

国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して, 講演企画委員会では以下の規定

を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、専門分科会に関しては各コンビーナーの判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

### ．研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自動的に運営する研究会活動に対し、一般的の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2009s@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。

申込期限：2009年2月17日（火）

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

### 大会会場の利用について

大会実行委員会では、研究会開催のために、大会会場（国際会議場）内のの中会議室 406 号室（定員 168 名）を、5/28, 5/30, 5/31 の 18:00 ~ 21:00 の時間帯について確保しています。

部屋の利用につきましては、講演企画委員会を通して大会実行委員会にお問い合わせ下さい。

基本的には、会合の趣旨を勘案の上、申し込み順としますが、希望数が供給数を上回る場合は、受益者負担とさせていただきます。その際には、大会実行委員会より国際会議場の担当者を紹介いたします。なお、会場利用費は約 5 ~ 6 万円前後（備品により異なる）です。

### ．大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、下記 2 件を紹介致します。

#### 1. チャイルド・クラブ・パンセ

〒305-0051 つくば市二の宮 1-21-3 グランドパレス NS-1 102 号室  
TEL: 029-861-1500, FAX: 029-861-1700  
URL: <http://www.e-tsukuba.jp/childclub>

#### 2. チャイルドランドつくば

〒305-0051 つくば市二の宮 3-2-11 平田ビル 3F  
TEL: 0120-38-8373, FAX: 029-849-2020  
URL: <http://www.e-tsukuba.jp/child/>

利用料金は、1名あたり 800 円 ~ 1,200 円 / 1 時間で、ご利用の施設やご利用されるお子様の年齢によって異なります。大会実行委員会では、利用金額の一部を補助することも検討しています。上記の施設、及びそれ以外の保育施設の利用等、保育支援をご希望される方は、2009 年 5 月 8 日（金）までに下記担当者までご連絡下さい。また、それ以降の問い合わせにもできる限り対応致します。

連絡先：足立幸穂（筑波大学生命環境科学研究所）

Email : [sachihoa@geoenv.tsukuba.ac.jp](mailto:sachihoa@geoenv.tsukuba.ac.jp)

TEL : 029-853-5692